大学院医学研究科　医学専攻　博士課程

専攻主科目名

腎臓病学

◆問合わせ連絡先　担当: 内科学講座　柴田　茂

E-mail　shigeru.shibata@med.teikyo-u.ac.jp

TEL　03-3964-1211（内線・ﾓﾊﾞｲﾙ:40356・7160）

HP（研究室・診療科）　http://www2.med.teikyo-u.ac.jp/nephrology/

◆研究室・講座・医局等の紹介

腎グループ

【陣　容】

教　授：柴田　茂、藤垣嘉秀

講　師：田村好古、山崎　修

兼担講師：太田　樹（帝京大学医療技術学部診療放射線学科准教授）

助　教：新井繁幸

病院助手：奈倉倫人、大倉理沙、浅川信一郎

大学院生：根本佳和(4年)、森本幾之(4年)、大溝啓揮(3年)、菊山崇浩(3年)、酒井一広(3年)、飯島隆太郎(2年)、和氣快斗(2年)、山中仁樹(2年)、冨樫　良（1年）、本間文佳（1年）、安川　穂（1年）

後期研修医：岡田　学(3年)、北川幸子(3年)

修練医：小林沙和子

非常勤講師：兒島憲一郎（上尾中央総合病院腎臓内科）

非常勤講師：冨丘　聡（東京腎泌尿センター大和病院）

非常勤助手：野坂仁也（上尾中央総合病院腎臓内科）

非常勤助手：石澤健一（新線池袋クリニック）

非常勤助手：渡邉秀美代（第一三共株式会社）

◆研究室・講座・医局等の紹介

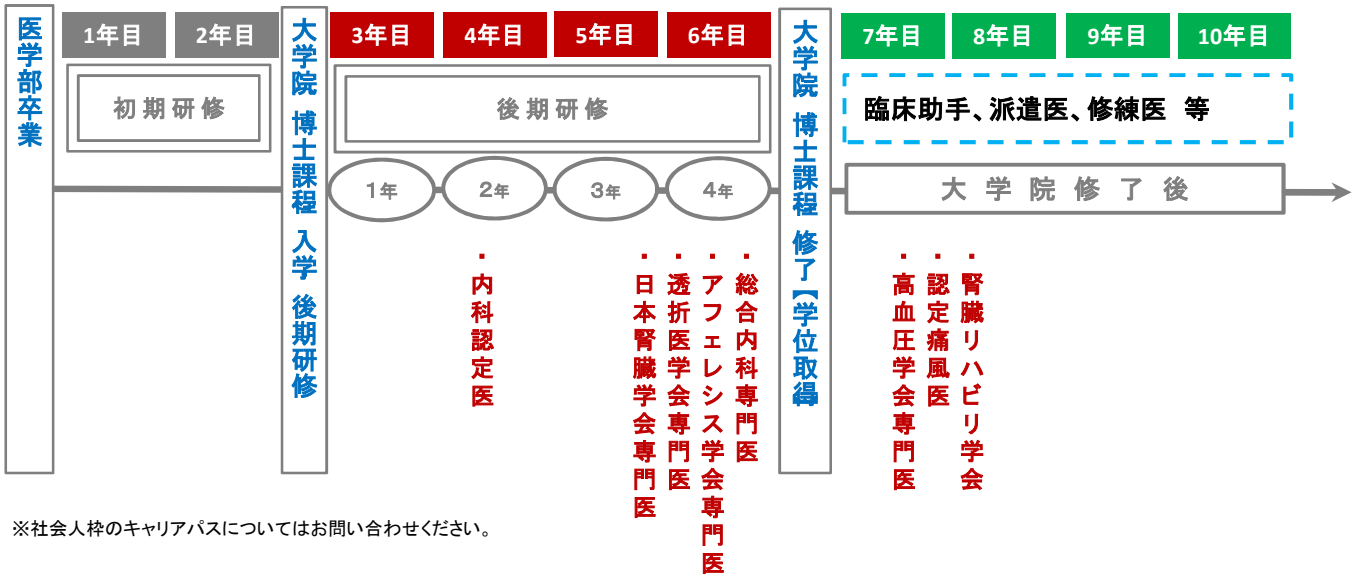
- 腎グループの臨床分野は4つに大別される。蛋白尿・血尿などの腎炎・ネフローゼ症候群、水電解質・酸塩基平衡・輸液の分野、急性腎不全・慢性腎不全・体外循環療法、そして高血圧の分野である。いずれもが有機的に結びついており、腎臓専門を標榜する以上、どの一つも決して軽視することが出来ない。
- 腎センターの業務は主に血液透析患者の治療となるが、最近では体外循環療法全般にわたっている。血漿交換療法、持続血液濾過療法、LDLアフェレシス、ビリルビン吸着療法、エンドトキシン吸着療法、白血球除去療法などの需要も多く、内科の他部門および他科からの要請も増加の一途である。新たに血液透析療法を導入する患者さんの数は年々増加し、最近は50名を超えている。慢性維持透析患者の長期化とともにシャント拡張術（PTA）が増加し、エコーを用いて内科医が施行している。
- 腹膜透析導入にも力を入れている。極力腹膜炎や低栄養などの合併症で離脱しないように注意している。
- 腎生検は年間70名を超え、常に腎病理医と合同カンファランスを開催して病理診断している。原発性ネフローゼ、IgA腎症をはじめ尿細管アミロイドーシス、C3腎症など稀有な疾患も多く学会発表・論文発表している。

◆研究室・講座・医局等の紹介～臨床

- 2014年1月から患者・市民向けに帝京CKD教室を開始した。医師のみならず栄養士、薬剤師、看護師、ソーシャルワーカーからの講演は非常に高い評判を得ている。毎回70～80名以上の参加者を得ており、年4回開催している。日時は、帝京大学病院および腎臓研究室のホームページで紹介している。
- 板橋区医師会とはCKD診療地域連携を強化するために紹介基準と検査項目の冊子を作成して「二人の主治医」を実践している。
- 関連病院として、東京北社会保険病院、地域医療振興協会練馬光が丘病院、上尾中央総合病院、堀ノ内病院、中島病院、岩槻南病院、東川口病院、豊島中央病院、東京腎泌尿器センター大和病院、東京都健康長寿医療センター、国立埼玉病院などに腎臓内科の常勤医師・非常勤医師を派遣して、医療連携および共同研究を実施している。さらに透析クリニックの関連病院は多方面に渡り、埼京地区というくくりで医療連携を構築し、入院が必要な場合は帝京大学病院で治療を行う体系ができている。また血液透析患者を用いた多施設共同臨床試験も行っている。

◆研究室・講座・医局等の紹介～研究

- 腎臓病学の研究テーマは臨床4分野と同一線上にある。食塩感受性高血圧の分子機序、高リン血症の腎障害、尿酸と腎障害などが進行中である。定期的な中国からの留学生のほか、中国・米国・スイスなどと国際共同研究を行っている。
- 臨床研究としては慢性腎不全の進行因子の解明、尿exosomeを含むプロテオミックス、高血圧の試験、AKIの病態、多施設RCT、機能性野菜の有用性検討などである。
- 腎では研究と臨床が非常に密接に関連しており、from bench to bedsideあるいはその逆ということが特徴である。当研究室でのキャリアパスを下図に示す。



※社会人枠のキャリアパスについてはお問い合わせください。